

学校概要

創立 39 周年	学校長 相澤 順	副校長 関 宣也	学期 3 学期制	児童・生徒数 332 人
学級数 一般級: 9 個別支援級: 3			主な関係校: 上飯田小学校、飯田北いちょう小学校	

学校教育目標

生徒の自己実現を支援するために次の心を育みます。
 ○基礎・基本を身につけ、自分の可能性を伸ばそうとする心。(知・徳)
 ○心身をきたえ、思いやりをもって、たくましく生きようとする心。(体・徳)
 ○広い視野をもって、異なる文化を認め合い、互いに支え合う心。(公・開)

学校の特徴

- 明るく純朴で人懐こい生徒が多い。外国籍、外国につながる生徒が約3割在籍している。
- 保護者はPTA役員を中心に学校に協力的である。生徒同様、数力国語の通訳を必要とする。
- 地域からは地域の学校としての期待があり、協力的である。生徒のため、地域のため連携が必要である。
- 労苦をいとわず、丁寧に指導支援に当たり、生徒一人ひとりを大切に育てようとする教職員集団である。
- 多文化共生の精神を柱に、生徒一人ひとりの自尊感情の高揚とアイデンティティの確立が求められる。
- 基礎・基本の知識技能の定着に、授業の工夫改善と日本語指導や個に応じた指導の充実が大切である。

学校経営中期取組目標

- 「チーム上中」として、全職員で安心安全な楽しい学校づくりを目指します。
- ・基礎・基本の定着のため、授業の工夫改善を図り、「わかる授業」の実践と、個に応じた指導の充実に努めます。
- ・自尊感情の高揚とアイデンティティの確立のため、多文化共生の精神を柱とした人権教育と生徒主体の活動を推進します。
- ・地域社会の一員であることを自覚し、様々な行事や活動に積極的に取り組み、社会に貢献できる心を育みます。
- ・学習意欲や向上心の育成と、学校生活の安心安全のため、丁寧な生徒理解ときめ細かな生徒指導の充実に努めます。

小中一貫教育の取組

上飯田中学校	ブロック	上飯田中学校 上飯田小学校 飯田北いちょう小学校
9年間で育てる子ども像	進んでコミュニケーションをとることで、相手の気持ちを思いやり、自己実現を図ろうとする児童・生徒 上飯田地区における評価観の共有化～言語活動のさらなる充実を目指して～	
自校の具体的取組	○ブロック内授業交流会を開催。全体会と協議会を行い、小中教職員の協働で小中一貫教育カリキュラムを推進する。 ○人権や国際担当、専任を中心に小中連携を深め、小中の円滑な接続のため小と中で児童生徒交流会を実施する。	

重点取組分野	取組目標	具体的取組
確かな学力	授業の工夫改善を図り、「わかる授業」の実践に努める。「個に応じた指導」を充実させ、支援体制を整える。	①年3回のブロック内授業交流会等を充実させ、授業の工夫改善に努める。 ②国際教室や特別支援の取り出し授業に多くの教員と通訳や学習支援ボランティアがかかわる。 ③英語科や理科を中心に少人数・TT指導を取り入れ、「個に応じた指導」の充実を図る。
豊かな心	多文化共生を柱とした人権教育と生徒主体の体験活動を推進し、自他ともに認め合う、思いやりのある生徒を育てる。	①道徳や教科指導、環境教育、福祉教育の実践により、国際理解教育や人権教育の充実を図る。 ②様々な行事や活動を通して、生徒一人ひとりが主体的に活躍できる場をたくさんつくり、自尊感情や自己肯定感を育む。
健やかな体	自らよりよい健康について考え実践する生徒を育てる。保健委員会の取組を継続し、食育の充実を推進する。	①保健体育や部活動指導を通し、体力や技能向上の機会を増やすとともに、健康や安全に生活する大切さを理解させ、自らよりよい健康について考え実践する生徒を育てる。 ②保健委員会と学校保健委員会が連携して行う、生徒主体の「お弁当コンテスト」を実施(4年目)し、バランスのよい食生活への意識向上を図る。
学習指導	自ら学習のつまづきに気付き、その課題解決に取り組む意欲をもたせる学習指導の工夫や充実に努める。	①各教科とも定期テストの振り返りを丁寧にを行い、つまづきに気付かせる。 ②一斉に漢字・計算・英単語テストを実施し、基礎・基本の定着につなげる。 ③国際教室の日本語指導、特別支援の取り出し授業、補習等により学習意欲の向上や継続を図る。 ④定期的な教育相談を通し、学習や進路に対する悩みや不安を聞き、具体的な改善策を示唆する。
児童・生徒指導	教育相談や面談を充実させるとともに、機会をとらえ生徒との関係づくりを丁寧にを行い、個に寄り添った指導・支援を継続する。	①丁寧な教育相談と保護者面談等の実施により、生徒・保護者と良好な信頼関係を保つ。 ②年間を通して様々な事案に対し、専任や主任を中心に情報共有し、迅速・的確・きめ細かに対応や指導・支援に当たる。
特別支援教育	個々の特性に応じた指導支援ができるよう、情報交換を適宜行う。発達障害等への理解を深めるため、研修を行い実践に結びつける。	①特別支援教育推進委員会等で情報交換を適宜行い、特性に応じた指導支援の充実を図る。 ②カウンセラーやブロック内小学校、関係機関と密に連絡を取りながら、適切な支援方法を探る。 ③発達障害やユニバーサルデザイン等に関する研修を行い、教職員で理解を深める。
教職員の研究・研修	多文化共生を柱とした人権教育の推進のため、研修や講演会を行う。また、生徒理解と保護者対応研修を行い、学校の安定を向上させる。	①ブロック内の幼保小や関係機関と連携し、多文化共生に関する研修や講演会を企画運営する。 ②校内研修では、生徒理解や保護者対応に関する研修を行い、教員の指導力向上につなげる。

人材育成・組織運営	授業力向上と不祥事防止への取り組みを授業観察や研修会により実践する。校内組織の横断的連携を強化し、業務の効率化を図る。	①管理職やメンターチームによる参観授業を通じ、授業力の向上を目指す。 ②月1回程度、不祥事防止に関するミニ研修を実施する。 ③組織の連携や見直しを図り、校内組織のスリム化と多忙化の解消をすすめる。 ④会議の目的を明確にし、短時間で効率のよい運営に努める。
担当	学力向上委員会・教務主任	